



朝霞第二小だより



【学校教育目標】 進んで学習する子（知） 仲良く助け合う子（徳） 健康で明るい子（体）

〒351-0007 朝霞市岡3丁目16番13号 TEL048-461-0042

令和7年7月1日

児童数 751名

「心の居場所づくり」

校長 渡辺 貴子

本格的な夏を前に暑い時季となりましたが、二小の子供達は元気に過ごしています。

さて先日、かかりつけのお医者さんに行ったときの看護師さんとのお話です。看護師さんのお子さんは、幼稚園の頃にラグビーと出会い、友達との関係、礼儀などたくさんのことを学べたとのことでした。そのお友達とはずっと仲良しで良い関係が大人になった今も続いている、本当に感謝しているとのことでした。私は、ラグビーを続けたお子さんもさることながら、子供が「やってみよう」と思ったときにその機会を与え、サポートし続けた親である看護師さんが素晴らしいと思いました。

子育てや教育は、思うようにはいかないことが、たくさんあるのですが、共通しているのは、「こういうふうに育ってほしい」という思いが優先してしまうと、子供の個性に依拠してというところが見えなくなることです。また、時には「親」というブラインドで客観的な判断ができなくなることもあります。学校に寄せられる「うまくいかないこと」のご相談では、特に人間関係が絡んだ「トラブル」「叱る」という場面での相談が多いように思います。

小学生は、発達段階において、時系列で出来事が話せるようになったり、他者との違いに気付いたり、叱られても未発達で本当に覚えていなかったり、都合が悪いことを隠したりして話さないことがあります。それでは、子供にどのように関わればよいのでしょうか。よくないことをしてしまった場合、まず自分がやったことを素直に言えるからです。それは「叱られるのが怖いから言わない」「自分の悪いところがわかっていて隠す」ことがあるからです。次に「ごめんなさい」と素直に謝ることができて、次は繰り返さないという約束をする。そして見届ける。

親の特権と言って、感情にまかせて怒鳴ったり、力で抑えたりする方がいますが、そのやり方では、素直に子供が間違えたことを言えません。叱られることを恐れ、嘘が重なります。また、子供が寂しい思いを感じていると、構ってほしくて話を大きくして心配してもらおうとするケースもあります。さらに学年が上がると、お友達同士で秘密や悪口を共有することによって、それが仲良しだと勘違いをしてしまうこともあります。

人間の悩み事の8割は人間関係だと言います。「自分がされて嫌なことは人にはしない」は小さな頃からの基本です。大切なのは、たわいもない話も含め、本当に助けて欲しいとき、困ったときに話せる場がある、心の居場所をつくることです。何かあったら、「どうしたの」と聞くことから。聞けるような態勢を大人が示し、聞き出した内容の真偽を良識・常識で考え、周囲の人、学校にあっては、担任に聞く・相談する。私たち教職員も学校も、話せる場でありたいです。ご家庭での、お子さんとの会話を大切にしてください。